

エネルギー回収型一般廃棄物処理施設整備事業に伴う  
環境影響評価方法書説明会要旨

1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設整備事業に伴う環境影響評価方法書説明会

2 開催日時 令和3年12月10日（金）午後6時30分から午後8時まで

3 開催場所 弥栄市民センター

4 参加者 12人

5 事務局

村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、千葉晃一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、吉田健総務管理課施設整備係長、石川勝志総務管理課主任主事、一般財団法人日本環境衛生センター5名（以下、日環センター）、国際航業株式会社4名（以下、国際航業）

6 説明

(1) エネルギー回収型一般廃棄物処理施設整備事業の概要について

(2) 環境影響評価方法書について

7 説明内容

(1) エネルギー回収型一般廃棄物処理施設整備事業の概要について  
配布資料に沿って事務局が説明を行った。

(2) 環境影響評価方法書について  
配布資料に沿って国際航業が説明を行った。

8 質疑応答

参加者 施設建設に対して周辺住民が拒否することができるのか。

事務局 施設整備を無理矢理進めることは考えていない。地元の方に説明をして、質問と回答を繰り返しながら、頂いた意見を事業計画に反映していきたいと考えている。

参加者 環境影響評価手続きの流れは理解できた。各項目の評価結果は、公告又は縦覧という手段でしか見ることはできないのか。また、予測はいつの段階で調査して正式な調査はいつから行うのか、再度説明をお願いしたい。

事務局 正式な調査は令和3年度末から令和4年度いっぱいにかけて実施する予定。調査・予測・評価結果については、令和5年度に環境影響評価準備書を作成し、公表する予定である。令和6年3月には、環境影響評価書を作成し、公表したい。

参加者 評価結果について、住民説明会を開催して説明してくれるのか。

事務局 今回と同じように、住民説明会を開催して説明する。

参加者 施設稼働後を想定した影響を調査するという解釈で合っているか。

事務局 工事中の影響と施設稼働後の状況をあらかじめ予測し、評価するために、環境影響評価を行う。工事では建設機械や重機、トラック等が区域内に入るため、工事に伴う影響も調査する。どのようにすれば、環境への負荷を減らせるかを調査する。

参加者 今回の調査結果と実際の稼働後のデータを対比して説明できるように、しっかり調査してほしい。

事務局 稼働後には、事後調査計画を作成し、説明してまいりたい。

参加者 工事中及び施設稼働後に、車両の混雑を懸念している声がある。国道からの入口が十字路交差点になっているため、右折や左折をする車両が増えると国道が混雑するのではないか。また、事故も増えるのではないか。そのあたりも考慮して評価してくれるのか。

事務局 工事中はダンプトラックが走り、施設稼働後には廃棄物の収集運搬車両が走るため、今の交通量よりは確かに増える。環境影響評価では、現状の交通量を調査して搬入搬出車両の運行を含めた交通量の予測を行い、騒音や振動などの評価を行う。交通安全対策については、準備書や評価書の中で、事業を行う際の環境配慮事項や安全対策の項目として、工事車両の通行を集中させないようにするなどの、交通対策を記載することになると思う。

参加者 環境影響評価に選定している項目よりも、交通量の増加について懸念している。事業区域周辺を通る国道では、歩道が少なく事故がよく起きている。交通量の評価も明示してほしい。

事務局 これから施設や取付け道路等を設計する。安全対策を考慮して進めていきたい。そのほかにもご意見があれば、事業計画に反映していきたい。

参加者 質問に対して明確に回答してもらわないと、賛成か反対かなども判断できない。図面等も示しながら説明してほしい。

事務局 承知した。明確に回答したい。先日ご意見いただいた、スクールバスのバス停については、担当の一関市教育委員会にお話を繋いだ。また、今後は図面などを用意して説明したい。

参加者 近くにある弥栄小学校の標高よりも、煙突の方が高いのか。煙突の方が高いのであれば、風向によっては排出ガスが小学校の方へ流れていき、大気だけではなく土壤の汚染も懸念されるのではないか。

事務局 弥栄小学校は、大気質については地点を決めて予測する予定だった。平沢分館と弥栄市民センターに加え、弥栄小学校も土壤（ダイオキシン類）調査をした。

事務局 煙突の高さと弥栄小学校の位置関係については、10月に実施した地形測量調査の結果によると、候補地の標高は上段が約80メートル、下段が約60メートルであった。煙突の高さは59メートルの計画である。弥栄小学校の標高は約110mであり、下段に煙突を設置したとしても煙突の方が小学校よりも高くなる位置関係にある。

参加者 一般的に廃棄物焼却施設では、鉛・水銀・六価クロム等が発生するといわれる。今回の施設は、このような物質が全く発生しない施設といえるのか。

事務局 焼却施設については、まずは排ガスと一緒にそのような物質が発生しないようにする。次に、排水や飛灰として出てくる時の管理の話をする。鉛や銅、錫は低い融点で溶けるため、ばいじんに移行する。これらは有害性が強い特別管理廃棄物とされていて、処理方法も定められている。これらは水に溶け出さないようにキレート処理をしたうえで埋立場に運ぶことになる。また、地元の方に信頼してもらうために、定期的に現状を報告・公表する形も検討していきたいと思う。

参加者 以前の説明会で質問した際、処理方式は焼却方式であり、堆肥化方式を実施しないと聞いた。しかし、今回の補足資料の処理方式にとして、焼却方式に加えて、堆肥化方式など資源化率の高い処理方式を付加的に導入できないか引き続き検討との記載がある。方向性が変わったのか。

事務局 焼却方式に加え、不可的に導入する処理方式については、検討段階であり、堆肥化方式に決まったわけではない。堆肥化方式を含め、資源化率の高い処理方式を付加的に導入できないか検討しているところである。はじめに、ごみの分別や収集方法を決めて、処理方式を定めていく予定である。

参加者 弥栄地区の中央に国道が通っているにも関わらず、道路に関する説明がまだなされていない。今後説明してくれるのか。意見書の提出が2022年1月6日までとのことだが、これは道路に関する意見も含まれるのか。

事務局 意見書は環境影響評価の調査方法に関する内容が該当するため、道路に関する内容は含まれない。なお、交通量や道路に関する情報は、現在公表している方法書の中で整理している。また、本事業の設計はこれからであり、道路の取り付け位置等の検討後に改めて説明会を設ける。その際にご意見をお聞きしたい。

参加者 エネルギーの目標回収率は18%とのことだが、もっと効率よく回収することはできないのか。

事務局 この目標回収率は、回収した熱を電気に変換した場合の値である。この値は施設規模に比例する。施設規模が大きければ発電効率を高くできるが、この施設規模の場合、信頼できる現時点の技術では 18%が妥当である。これからの設計段階において工夫し、もっと効率よく回収できないか研究する。

9 担当課 総務管理課